

2014/8/28

学校と社会をつなぐ調査 分析結果報告 & シンポジウム

事例報告：京都市立堀川高等学校

京都市立堀川高等学校

飯澤 功

はじめに

本校生徒のキャリア意識向上に
役立っている取組

A. 探究基礎

B. 種々の自主活動

本日はAをメインに。

1. 授業の流れ

探究とは

「用意された答え」がない「問い」に対して、正しいと思われる答えを導き出すこと。

探究基礎 1年半の流れ

学年・学期 (別称)		1 年 前 期 (HOP)	1 年 後 期 (STEP)	2 年 前 期 (JUMP)
科目名	普通科	社会と情報 (前期2時間分)	探究基礎 I (後期2時間分)	探究基礎 II (前期2時間分)
	探究 学科群	探究基礎 I α (前期2時間分)	探究基礎 I β (後期2時間分)	
位置づけと目標		探究準備期間 探究の「型」 を学ぶ	探究体験期間 探究の「術」 を身につける	探究実践期間 探究の「道」 を知る

1年前期 HOP

- 探究の「型」を学ぶ期間
- 目標:どの分野を探究する上でも必要な探究の進め方や,表現の仕方を学ぶこと
 - 探究活動の進め方
 - 論文の形式・書き方
 - 情報収集の方法
 - 論文作成の実習

1年後期 STEP

- 探究の「術」を身につける期間
- 目標: 分野固有の研究手法を身につける
- 分野毎の少人数講座(ゼミ)に配属
- 実験技能
- データ分析
- 文献収集・文献講読
- レポート作成方法

参考：SSH

- 先進的な理数教育を実施
- 高大接続・国際性を育むための取組
- 創造性、独創性を高める指導方法
- 教材の開発等
- 本校は平成14・17・22年度の指定
- 年間900万の研究開発費

2年前期 JUMP

- 探究の「道」を知る期間
- 目標：探究活動を実践する
- 個人で研究テーマを決定
- 研究計画の立案
- 必要な知識・技法は自分で習得
- ゼミを超えた発表会
- 論文作成

探究基礎研究発表会

- ポスター形式の発表会
- 2年生が1年生に発表
- 2年同士が互いの研究を批判的に検討
- 他校教員・保護者・中学生・研究者

2. キャリア教育との関連

ゼミ選択

- ゼミ希望調査(9月末)
- 学科・コース選択(11月)
(必ずしも学科とゼミの文理は
一致しなくともよい)

→ 進路への意識

ティーチングアシスタント (TA)

- 大学院生による指導補助
- SSH予算による雇用
- 進路の参考に

体験記集

- 探究基礎終了後，探究活動の振り返りを記載
- 具体的な気づきや学び
- 論文には記載しない失敗談

体験記集

- 実験内容を全て自分で考える必要があったので大変だった。
- 実験手法を考え、予備実験をして、実験装置を作成していると時間がなくなってしまう。
- 実際に実験を始めると予想もしない問題が数多く出てきて、予備実験に1カ月以上使ってしまった。
- 実験計画を立てないと無駄が増える/実験計画をしっかりとてる/ノートに手順を書き出す。

体験記集

- 文献やインターネットでは、間違った情報や偏った情報が多く、情報の信頼性を確かめるのに苦労した
- 後から何が必要になってくるか予想できないので、一度使わない、と判断した文献・データであっても出典記録や詳細な情報を記録しておく

体験記集

- 自分の頭では筋道ができていても、文章としてわかりやすく書き表すのは、困難な作業であった。
- 輪読会で要約する力をつけたおかげで人に研究内容を相談するときに役立った。
- 周囲からの指摘で、思い込みを指摘してもらえた。
- 第3者の視点で見直すことが大事。

まとめ

- 「探究基礎」という授業で自分が明らかにしたいことのために、研究(学問)をするという経験をさせている。
- ゼミ選択やTAとの談話など、進路啓発の視点も取り入れている。
- 研究に伴う困難を振り返り、今後役に立てさせるような振り返りを行っている。